

第10回プレゼン・ディベート大会 結果報告

2013年10月19日（土）経済学部主催「第10回プレゼン・ディベート大会」が開催されました。テーマは「とかい暮らし、いなか暮らしー北海道で『豊か』に暮らすにはー」です。今年は少し参加チーム数が減りましたが文学部、法学部からの参加もあり、10チームが参戦。戦いの方式ををリーグ形式にし、一度負けてもまだチャンスはある！という展開に、各チームは知力をつくしてプレゼン力とディベート力を競いました。「とかい」と「いなか」をどう定義するか「とかい」での利点は、交通網にあるのか。「いなか」の利点はイベントによる町おこしにあるのか。各チームそれぞれの切り口で独創的な案が提示されました。

7時間にわたる数々の熱戦を繰り広げ、今大会を制したのは

優勝 モーニングワイフ（橋本ゼミ）

準優勝 黒子の茶道（肥前ゼミ）

三位 名状しがたいディベーターのようなもの（文学・法学部）

審査員特別賞 チームキー（高井ゼミ）

でした。



優勝チーム「モーニングワイフ」は、「とかい」を創造都市と規定して、その可能性を論じました。準優勝チーム「黒子の茶道」は、「とかい」と「いなか」の補完を前提とした論で、微妙な立論ながらも、よく詰められた理論を展開しました。三位チーム「名状しがたいディベーターのようなもの」は、分析力が評価されました。

今回新たに設けられた「審査員特別賞」に輝いたのは「チームキー」でした。戦国時代をモデルにした大名制度論は、まさに「独創的な構想」であり、この賞に相応しい内容でした。

今回もたくさんの学生が参加しました。多くの方々の聴講もいただきました。審査員や司会者も含め、参加者は90名にのぼりました。今年も盛況のうちに大会を終えることができました。ありがとうございます。 橋本

